

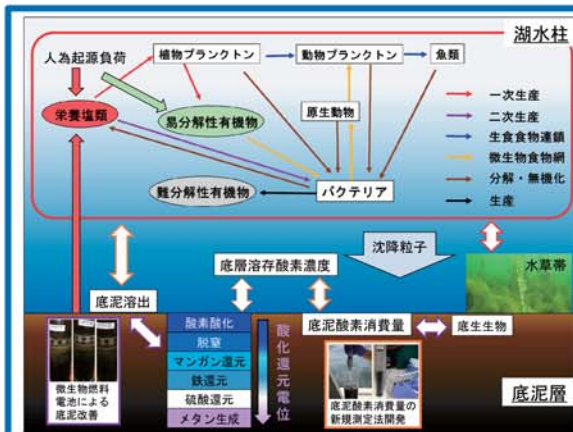
# ③ 琵琶湖の水環境と生物・生態系の保全・再生を目指して —琵琶湖分室の設置と今後の展望—

## 国立環境研究所琵琶湖分室

平成29年4月、政府関係機関移転基本方針に基づき、国立環境研究所琵琶湖分室（琵琶湖分室）が滋賀県琵琶湖環境科学研究センター（琵琶湖センター）内に設置されました。国立環境研究所は、霞ヶ浦、摩周湖等の日本全国の湖沼をフィールドとして、琵琶湖センターは、琵琶湖を対象に湖沼環境研究を実施してきました。豊富な研究実績を有する両者が共同で「健全な水環境保全のための水質・湖底環境に関する研究」及び「湖沼生態系の評価と管理・再生に関する研究」を行うことで、湖沼環境研究の一層の発展を目指します。



## 琵琶湖分室における共同研究



### 健全な水環境保全のための水質・湖底環境に関する研究

#### ①有機物収支に関する研究

湖水中の有機物の供給源である一次生産や細菌生産等の測定、有機物の特性評価を通じて有機物質収支の把握を行います。

#### ②底泥環境の評価と底泥溶出に関する研究

湖底泥・間隙水の成分分析、底泥酸素消費量や底泥溶出の新規測定法を導入し、底層環境評価法の検討を行います。

#### ③湖沼の水質・底泥質改善に関する研究

栄養塩の底泥溶出の抑制・水質の改善等に繋がる底泥環境改善手法を検討し、水質・底質改善への影響を評価します。

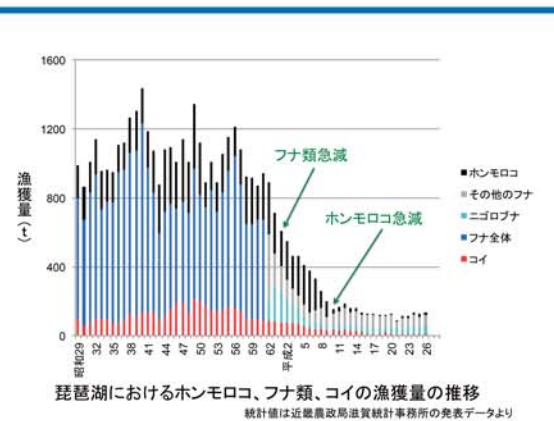
### 湖沼生態系の評価と管理・再生に関する研究

#### ①生物多様性・生態系の保全・管理・再生手法に関する研究

在来魚の資源回復を目標とし、好適な産卵・生育場所が備える生物・物理的な環境条件を解明します。卵から成魚の分布データと、地形を含む環境因子との関連を、過去のデータも活用しながら検討し、保全策の立案につなげます。

#### ②生態系評価・予測のためのモニタリング手法の検討

環境DNAを用いて、魚類や他の生物の分布データを効率的に得る手法を開発します。使い勝手がよく信頼性も高い手法にするため、各生物群のDNAバーコードデータを充実させるとともに、観察・採集に基づく実際の分布データとの比較検証を行います。



## 今後の展望

琵琶湖分室では、国民的資産である琵琶湖の保全及び再生のために、水質・底質・生態系を見渡した総合的な研究を行います。国立環境研究所のネットワークを活用し、霞ヶ浦との比較研究を皮切りに全国の湖沼を対象とした研究に発展させるとともに、地元大学・企業等との連携によって研究成果の活用・実用化を図る地方創生プロジェクトに参加し、湖沼のもたらす恩恵を将来的に享受できる社会の実現を目指します。

